

## 講師プロフィール

月日	講師	プロフィール
10/3	高木 慶子	聖心女子大学文学部心理学科卒、上智大学神学部博士前期修了、博士（宗教文化）。病気や事故などで家族をなくされた遺族の方々を対象に、グリーフケア（悲嘆にある人々の心のケア）の実践に携わり、長年その第一人者として活躍。「生と死を考える会全国協議会」会長、日本スピリチュアルケア学会副理事長、聖トマス大学・寄付公開講座コーディネーター。著書に『死と向きあう瞬間－ターミナルケアの現場から』『喪失体験と悲嘆』など多数。
10/10	水野 治太郎	早稲田大学大学院法学研究科修了。米国レッドランズ大学客員研究員として生命倫理・トランスパーソナル心理学等研究。麗澤大学外国語学部長等歴任。上智大学・東京女子医大大学院看護学研究科「人間学」担当。『ケアの人間学』『弱さにふれる教育』『おとなのいのちの教育』等。12年前から「痛みの分かち合い」を開始。体験談集『ほも・ぱちえんす』刊行。麗澤大学生涯学習講座「グリーフ・カウンセラー養成講座」（50名）開講中。昨年ブラジルで開催されたIWG（国際死生学研究大会）に出席し日本の死生学について発表。
10/17	細谷 亮太	東北大学医学部卒業。聖路加国際病院小児科レジデントを経て、テキサス大学癌研究所MDアンダーソン病院小児科にて、1978年よりクリニカルフェロー。1980年に聖路加国際病院に復職、1994年小児科部長、2003年副院長。現在、聖路加看護大学臨床教授、宮城県立こども病院理事、日本小児血液学会評議員、日本小児がん学会理事。主な著書として『パパの子育て歳時記』『小児病棟の四季』『ぼくのいのち』『いつもいいことさがし』『医者が泣くということ』など。また俳人として、「桜桃」「日本の四季旬の一句」の著者の一人でもある。
10/24	小山 明子	1954年「家庭よみうり」のカバーガールとなり、松竹にスカウトされ入社。1960年大島渚氏と結婚。創造社、植物園（芸能事務所）を経て、2001年小山明子事務所を設立。主な受賞に、1966年日本放送作家協会女性演技者賞等があり、映画、テレビ、舞台で活躍する一方、1996年夫・大島渚氏が脳出血で倒れ、介護の日々を綴った『いのち輝く』を出版。『パパはマイナス50点』を出版し第25回日本文芸大賞エッセイ賞を受賞。
10/31	谷山 洋三	東北大学大学院文学研究科博士課程（印度学仏教史学専攻）修了。長岡西病院ビハラー病棟ビハラー僧（仏教系緩和ケア病棟のチャプレン）を経験し、2003年～現在：四天王寺国際仏教大学（2008年4月より「四天王寺大学」）教員となる。日本スピリチュアルケア学会理事、仏教看護・ビハラー学会理事、日本仏教社会福祉学会理事、日本死の臨床研究会世話人、臨床スピリチュアルケア協会事務局長を務め、著書に『仏教とスピリチュアルケア』、共著書に『スピリチュアルケアを語る』など。
11/7	アルフォンス・デーケン	1932年ドイツ生まれ。1959年来日。1973年フォーダム大学大学院（ニューヨーク）で哲学博士の学位（Ph.D.）を取得。以後30年にわたり、上智大学で「死の哲学」などの講義を担当。カトリック司祭。現在、上智大学名誉教授。「東京・生と死を考える会」名誉会長。「生と死を考える会全国協議会」名誉会長。1991年全米死生学財団賞、第39回菊池寛賞、1998年ドイツ功労十字勲章、1999年第15回東京都文化賞などを受賞。主要著書として『よく生き よく笑い よき死と出会う』他多数。
11/14	坂下 裕子	兵庫県尼崎市出身。大阪音楽大学音楽学部卒。武庫川女子大学大学院修士課程（教育学）修了。病児遺族わかちあいの会「小さないのち」代表、グリーフケア研究会事務局、日本小児科学会会員として活躍している。著書に『小さないのちとの約束』『天国のお友だち』、共著書に『いのちって何だろう』がある。

11/21	日野原 重明	1911年山口県生まれ。京都帝国大学医学部卒業の後、聖路加国際病院内科医となる。現在は、聖路加国際病院理事長・名誉院長、聖路加看護学園理事長、財団法人ライフ・プランニング・センター理事長など。1998年東京都名誉都民、1999年文化功労者。2005年文化勲章受章。早くから予防医学の重要性を指摘し、終末期医療の普及、医学・看護教育に尽力。現在も医師として診療を続けている。著書に『生きかた上手』『95歳からの勇気ある生き方』『いま伝えたい大切なこと』『十歳のきみへ』など。
11/28	田中 紘一	1942年大分県生まれ。1966年京大外科入局。島根県立中央病院勤務、京大第2外科研究室助教授などを経て、1995年12月より2005年3月まで京大大学院医学研究科移植免疫医学講座教授。あわせて2001年4月より2005年3月まで京都大学医学部附属病院長を務めた。1990年より臨床生体肝移植に取り組み、また、生体小腸移植を唯一手がけている。現在は先端医療センター（神戸市中央区）のセンター長に就任。
12/5	東口 高志	1957年鈴鹿に生まれる。1981年三重大学医学部卒業。外科学、代謝・栄養学を専攻。1987年大学院修了、医学博士取得。1990年米国シンシナティ大学に勤務。帰国後三重大学医学部講師、鈴鹿中央総合病院外科医長、尾鷲総合病院副院長を歴任しつつ、わが国初の全病院型栄養サポートチーム(NST)を創設、これを全国に普及。2003年現職の藤田保健衛生大学医学部外科・緩和医療学講座教授に就任。役職は日本緩和医療学会理事、日本静脈経腸栄養学会理事、日本栄養療法推進協議会理事、日本外科代謝栄養学会理事、日本死の臨床研究会世話人など多数。
12/15 (月)	徳永 進	1948年鳥取県生まれ。京都大学医学部卒。鳥取赤十字病院内科部長を経て、2001年鳥取市内でホスピスケアのある19床の有床診療所「野の花診療所」を始める。1982年、『死の中の笑み』で講談社ノンフィクション賞を受賞。臨床医として勤務するかたわら旺盛な執筆活動を続け、『医療の現場で考えたこと』『臨床に吹く風』『カルテの向こうに』『隔離』『死のリハーサル』など著書多数。1992年、第1回若月賞（独自の信念で地域医療に貢献している人に贈られる）を受賞した。
1/30	藤井 美和	現代、個人や社会の「いのちに対する価値観」は多様化している。その中で、自分自身の生き方を問われる時、また人の生き方に触れる時、「有限である生をいかに生きるか」が重要な問題となって浮かび上がってくる。主な研究領域は、個々人の持つ死生観、死を受け止め直す教育（Death Education）、そしてQOLの中でも人間存在の根源的な領域とされる「たましいの領域（スピリチュアリティ）」。1999年ワシントン大学(St. Louis)でPhD（博士号）を取得。関西学院大学で死生学を担当。現在、「死生学・スピリチュアリティ研究センター」センター長。
2/6	小田 武彦	カトリック司祭。聖トマス大学教授。2005年より聖トマス大学学長。上智大学（神学修士）、ローマの教皇庁立グレゴリアン大学（宣教学博士）等で学ぶ。アメリカのカトリック・テオロジカル・ユニオン大学院では「悲嘆」の重要性を学ぶ。共著に『歴史から何を学ぶか』、『カトリックの信仰生活がわかる本』、『いやしの福音』、『典礼奉仕への招き』等。
2/13	大頭 信義	1964年電気通信大学電波工学科卒業 1970年京都大学医学部卒業、京都大学医学部第2外科学教室にて研修。高山赤十字病院外科、京都大学医学部第2外科学教室医員を担当。米国ユタ大学に留学し、人工心臓研究に従事。国立姫路病院心臓血管外科、国立姫路病院医長を務め、現在は、だいたい循環器クリニック院長、日本ホスピス・在宅ケア研究会理事長、播磨ホスピス・在宅ケア研究会事務局。編著として『がん患者は家に帰ろう』を出版。
2/20	丸川 征四郎	神戸大学医学部卒。医学博士。神戸大学医学部麻酔科を経て、現在兵庫医科大学教授。日本を代表する救急・災害医学の研究者であり、また日本だけでなく世界中の大災害時や緊急時の指揮をとるために、現場に赴き陣頭指揮を執っておられる。特に、関西で発生した大震災時や JR 西日本福知山線事故当時には現場で指揮をとり、多くの負傷者の救出や救命のため奮闘された業績は大きい